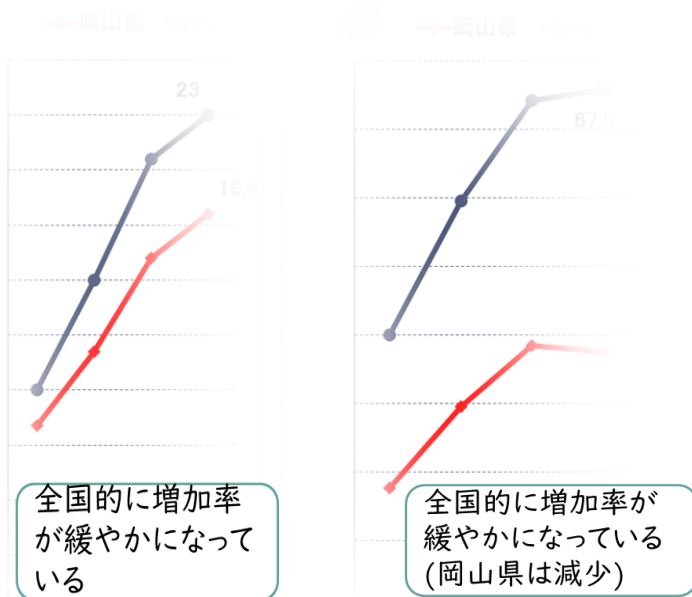


令和6年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果が公表されました。

1,000人当たりの不登校児童生徒数の推移(国公立立計)



岡山県の小・中・義務教育・中等教育学校の不登校児童生徒数は、全国平均を下回っています。

令和6年度の調査では、小学校では増加が続いていますが、増加率が緩やかになっています。中学校では、コロナ禍後初めての減少となりました。

チーム学校で、子どもたちに寄り添いながら粘り強く対応している結果であると考えます。

長期欠席・不登校対策スタンダードに基づき、支援対象者リストにリストアップした児童生徒を適切にアセスメントし、一人一人の状態に応じた適切な支援に学校全体で取り組んできた成果ですね。

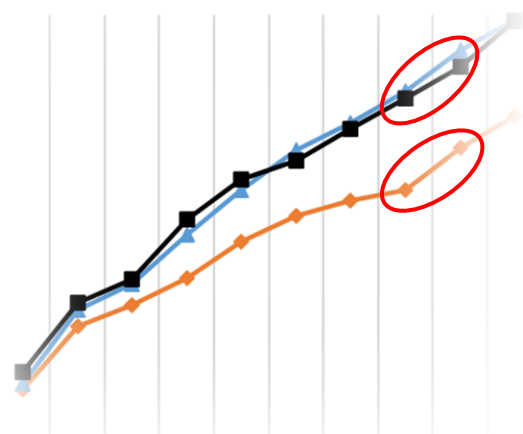


岡山県では、約9割の中学校において自立応援室を設置しています。学校内に教室以外にも安心して学習や生活をするのできる居場所があり、適切な支援を行えていることも不登校が減少した大きな要因の1つですね。

これから各校でさらに取り組めることがないか、見直すことができることはないか改めて考えてみましょう。

小学校 不登校(岡山県) ※岡山県調査 ※中学校も 同様の傾向

R4 R5 R6



◆1月から2月にかけて不登校者が増える傾向

考えられる要因は？

- 気温が下がり、外出しにくくなる
- 年末年始の生活習慣の影響が残る
- 予備群の児童生徒が30日を超える
- 校外学習、体育的・文化的行事等の楽しみが少ない
- 固定化された友達関係に悩む
- 学級内で居心地が悪い、居場所がない
- 教員との関係が悪化する
- 勉強が分からない・宿題の内容が難しい 等

◆冬季休業に入る前までの対応が重要

各校の取組は、どの児童生徒を対象としていますか？次の二つの視点で取組と対象を振り返ってみましょう。

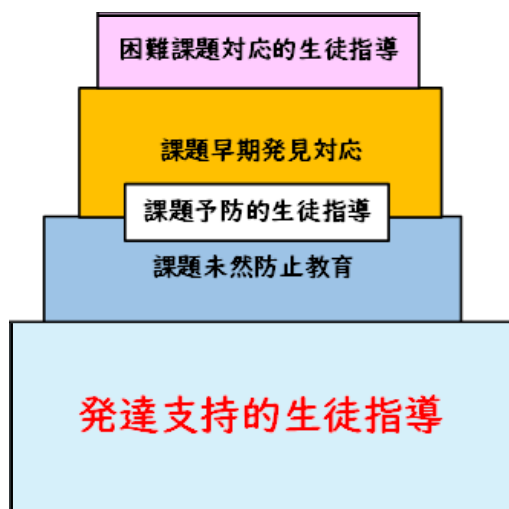
- I 欠席が長期化している児童生徒への対応（主に困難課題対応・課題早期発見対応）
- II 新たな不登校を生まない取組（主に課題未然防止教育・発達支持的生徒指導を中心に）



- ① 欠席が長期化している児童生徒にはどんな対応が必要か。
 - ② **欠席が10日以上29日以下の予備群の児童生徒にはどんな対応が必要か。**
 - ③ 欠席せずに登校している児童生徒にはどんな取組が必要か。
- 児童生徒の状態を重層的に捉え、それぞれに応じた支援を行うことが大切です。



不登校の対応における重層的支援(4層)構造



※【参考】生徒指導提要

- ☐ 欠席が長期化している児童生徒の背景や根本要因をアセスメントし、対応ができているか。
- ☐ **予備群の児童生徒に早期からの適切な指導や必要な支援ができているか。**
- ☐ 特別な配慮を必要とする児童生徒に対して普段から適切な指導や必要な支援ができているか。
- ☐ 児童生徒にとって学校全体が安全・安心な居場所となるための「魅力ある学校づくり」と「分かりやすい授業」の工夫ができているか。

【A 小学校の取組～ケース会議のすすめ～】



A 小学校では、欠席が10日以上になった児童について「ケース会議」を開いています。参加メンバーは、担任、不登校対策担当（生徒指導担当）、管理職等です。担任の空いている時間を使い、約20分でさっと話し合いを行います。話す内容を絞っているため、短い時間でも中身のある話し合いができ、気になる予備群の児童に、早い段階から学校全体で対応・支援することができるようになっています。

ケース会議では主に次の3点を中心に共有・相談しています。

- ① **児童生徒の状況**
- ② **本人・保護者の思いや願い**
- ③ **長期（短期）目標に向けて、誰がどのような支援をするか**

Mini 研修

☆重層的支援(4層)構造を意識しながら、予備群の児童生徒に冬季休業前までにどんな取組を行いますか？考えてみましょう。



令和6年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果では、今までの学校の取組の成果が見えてきました。引き続き、児童生徒を適切にアセスメントしながら、生徒指導の重層的支援(4層)構造を意識し、対応を行っていくことが大切です。